



トラブルシューティングのためのエクスポートポリシーの構成

エクスポートポリシーでは、エクスポートの統計情報、技術サポート収集、障害、イベントをエクスポートし、ファブリックから外部ホストにコアファイルとデバッグデータを処理できます (APIC およびスイッチ)。

- [ファイルのエクスポートについて \(1 ページ\)](#)
- [ファイルのエクスポートに関するガイドラインと制約事項 \(1 ページ\)](#)
- [バックアップのリモートロケーションの構成 \(2 ページ\)](#)
- [オンデマンドテクニカルサポートファイルの送信 \(4 ページ\)](#)

ファイルのエクスポートについて

管理者は、APIC 内で、コアファイルとデバッグデータを処理するために、統計情報、テクニカルサポートの収集、障害およびイベントをファブリック (APIC およびスイッチ) から外部ホストにエクスポートするようエクスポートポリシーを設定できます。エクスポートは XML、JSON、Web ソケット、Secure Copy Protocol (SCP)、HTTP などのさまざまな形式にできます。ストリーミング、定期的、またはオンデマンドの各形式でエクスポートを登録できます。

管理者は、転送プロトコル、圧縮アルゴリズム、転送の頻度などポリシーの詳細を設定できます。ポリシーは、AAA を使用して認証されたユーザによって設定できます。実際の転送のセキュリティメカニズムは、ユーザ名とパスワードに基づいています。内部的に、ポリシー要素はデータのトリガーを処理します。

ファイルのエクスポートに関するガイドラインと制約事項

- HTTP エクスポートとストリーミング API 形式は、統計情報の場合にのみサポートされます。コアおよびテクニカルサポートデータはサポートされていません。
- エクスポートされるファイルの宛先 IP アドレスは、IPv6 アドレスであってはなりません。

- 5つを超えるノードからのテクニカルサポートを同時にトリガーしないでください。特に Cisco Application Policy Infrastructure Controller (APIC) にエクスポートする場合、または帯域幅とコンピューティングリソースが不十分な外部サーバにエクスポートする場合は、トリガーを実行しないでください。
- ファブリック内のすべてのノードからテクニカルサポートを定期的に収集するには、複数のポリシーを作成する必要があります。各ポリシーは、ノードのサブセットをカバーする必要があり、時間をずらしてトリガーされるようにスケジュールします（少なくとも 30 分離す）。
- Cisco APIC の同じノードに対して複数のテクニカルサポートポリシーをスケジュールしないでください。同じノードで複数のテクニカルサポートポリシーのインスタンスを同時に実行すると、Cisco APIC が大量に消費されたり、CPU サイクルやその他のリソースが切り替えられたりする可能性があります。
- メンテナンスモードになっているノードについては、オンデマンドテクニカルサポートポリシーではなく、通常のテクニカルサポートポリシーを使用することをお勧めします。
- メンテナンスモードのノードに対する進行中のテクニカルサポートのステータスは、Cisco APIC GUI の [管理 (Admin)] > [テクニカルサポート (Tech Support)] > [policy_name] > [操作 (Operational)] > [ステータス (Status)] セクションでは使用できません。テクニカルサポートポリシーの [コントローラへのエクスポート (Export to Controller)] または [エクスポート先 (Export Destination)] に基づいて、コントローラ (/data/techsupport) または宛先サーバを確認し、テクニカルサポートがキャプチャされていることを確認できます。
- Cisco APIC からのテクニカルサポートの収集は、リーフスイッチ上のコアがビジー状態の場合にはタイムアウトすることがあります。BGP などのルーティングプロセスや HAL などのプラットフォームプロセスが CPU を占有すると、コアがビジーになる可能性があります。テクニカルサポートの収集がタイムアウトした場合は、CPU 使用率を調べて、CPU 占有が発生しているかどうかを確認します。そのような場合には、リーフスイッチのテクニカルサポートを直接収集すれば、タイムアウトの問題を回避できます。

バックアップのリモートロケーションの構成

GUI を使用したリモートロケーションの設定

この手順では、APIC GUI を使用してリモートロケーションを作成する方法について説明します。

ステップ 1 メニューバーで、[ADMIN] > [Import/Export] の順に選択します。

ステップ 2 ナビゲーションペインで、[Remote Locations] を右クリックして [Create Remote Location] を選択します。
[Create Remote Location] ダイアログが表示されます。

ステップ 3 [Create Remote Location] ダイアログのフィールドに適切な値を入力します。

(注) フィールドの説明については、[i]アイコンをクリックするとヘルプファイルが表示されます。

ステップ 4 [Create Remote Location] ダイアログのフィールドに値を入力したら、[Submit] をクリックします。これで、データをバックアップするためのリモートロケーションが作成されました。

REST API を使用したリモートロケーションの設定

この手順では、REST API を使用してリモートロケーションを作成する方法について説明します。

```
<fileRemotePath name="local" host="host or ip" protocol="ftp|scp|sftp" remotePath="path to folder" userName="uname" userPasswd="pwd" />
```

NX-OS スタイルの CLI を使用したリモートロケーションの設定

ACIファブリックでは、techsupportまたはコンフィギュレーションファイルをエクスポートする1つ以上のリモート宛先を設定できます。

手順の概要

1. **configure**
2. **[no] remote path remote-path-name**
3. **user username**
4. **path {ftp | scp | sftp} host[:port] [remote-directory]**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure 例： apic1# configure	グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	[no] remote path remote-path-name 例： apic1(config)# remote path myFiles	リモートパスのコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	user username 例： apic1(config-remote)# user admin5	リモートサーバにログインするユーザ名を設定します。パスワードを入力するように求められます。
ステップ 4	path {ftp scp sftp} host[:port] [remote-directory] 例： apic1(config-remote)# path sftp filehost.example.com:21 remote-directory /reports/apic	リモートサーバへのパスとプロトコルを設定します。パスワードを入力するように求められます。

例

次に、ファイルをエクスポートするためにリモートパスを設定する例を示します。

```
apicl# configure
apicl(config)# remote path myFiles
apicl(config-remote)# user admin5
You must reset the password when modifying the path:
Password:
Retype password:
apicl(config-remote)# path sftp filehost.example.com:21 remote-directory /reports/apic
You must reset the password when modifying the path:
Password:
Retype password:
```

オンデマンドテクニカルサポートファイルの送信

GUIを使用したオンデマンドテクニカルサポートファイルの送信

ステップ1 メニューバーで、[Admin] をクリックします。

ステップ2 サブメニューバーで、[Import/Export] をクリックします。

ステップ3 [Navigation] ペインで、[Export Policies] を展開します。

ステップ4 [オンデマンドテクニカルサポート (On-demand Tech Support)] を右クリックし、[オンデマンドテクニカルサポートの作成 (Create On-demand Tech Support)] を選択します。

[オンデマンドテクニカルサポートの作成 (Create On-demand Tech Support)] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ5 [オンデマンドテクニカルサポートの作成 (Create On-demand Tech Support)] ダイアログボックスのフィールドに適切な値を入力します。

(注) フィールドの説明については、[オンデマンドテクニカルサポートの作成 (Create On-demand Tech Support)] ダイアログボックスのヘルプアイコンをクリックします。ヘルプファイルが開いてプロパティの説明ページが表示されます。

ステップ6 [送信 (Submit)] をクリックし、テクニカルサポートファイルを送信します。

(注) オンデマンドのテクニカルサポートファイルは別のAPICに保存し、ストレージとCPU条件のバランスを取ることができます。場所を確認するには、[ナビゲーション (Navigation)] ペインでオンデマンドのテクニカルサポートポリシーをクリックし、[作業 (Work)] ペインで[操作 (OPERATIONAL)] タブをクリックします。コントローラが [EXPORT LOCATION] フィールドに表示されます。

ステップ7 ポリシー名を右クリックし、[Collect Tech Support] を選択します。

ステップ 8 [Yes] を選択して、テクニカルサポート情報の収集を開始します。

REST API を使用したオンデマンドテクニカルサポートファイルの送信

ステップ 1 REST API を使用して次の例のような XML を POST 送信し、テクニカルサポートファイルのリモート宛先を設定します。

例：

```
<fileRemotePath userName="" remotePort="22" remotePath="" protocol="sftp" name="ToSupport"
host="192.168.200.2"
dn="uni/fabric/path-ToSupport" descr="">

<fileRsARemoteHostToEpg tDn="uni/tn-mgmt/mgmt-default/oob-default"/>

</fileRemotePath>
```

ステップ 2 REST API を使用して次のような XML を POST 送信し、オンデマンドのテクニカルサポートファイルを生成します。

例：

```
<dbgexpTechSupOnD upgradeLogs="no" startTime="unspecified" name="Tech_Support_9-20-16"
exportToController="no" endTime="unspecified" dn="uni/fabric/tsod-Tech_Support_9-20-16" descr=""
compression="gzip" category="forwarding" adminSt="untriggered">
  <dbgexpRsExportDest tDn="uni/fabric/path-ToSupport"/>
  <dbgexpRsTsSrc tDn="topology/pod-1/node-102/sys"/>
  <dbgexpRsTsSrc tDn="topology/pod-1/node-103/sys"/>
  <dbgexpRsTsSrc tDn="topology/pod-1/node-101/sys"/>
  <dbgexpRsData tDn="uni/fabric/tscont"/>
</dbgexpTechSupOnD>
<fabricFuncP>
  <fabricCtrlrPGrp name="default">
    <fabricRsApplTechSupOnDemand tnDbgexpTechSupOnDName=" Tech_Support_9-20-16"/>
  </fabricCtrlrPGrp>
</fabricFuncP>
```


翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。